

同蓮記

特260

586

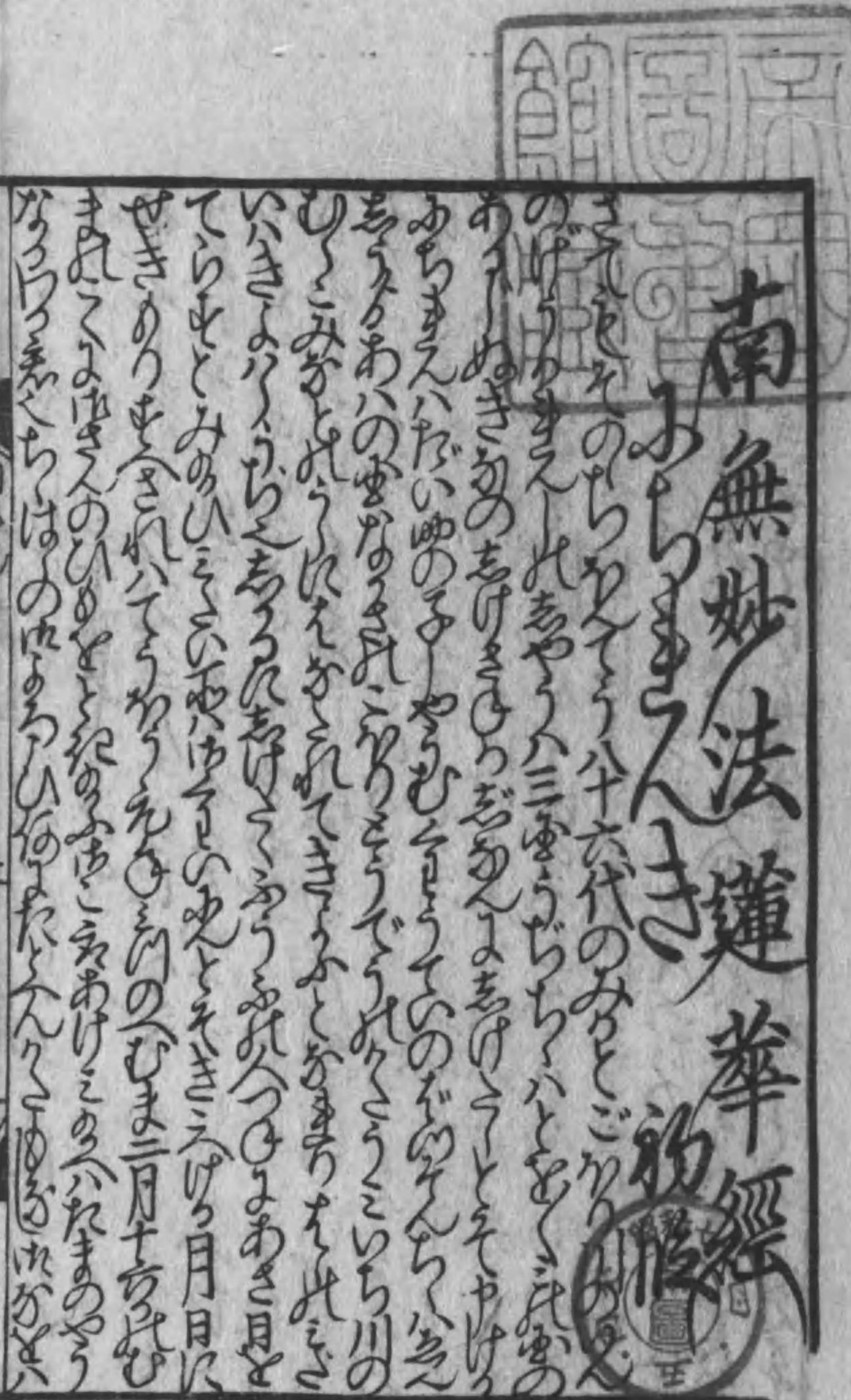
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 16
30 1 2 3 4 5

始



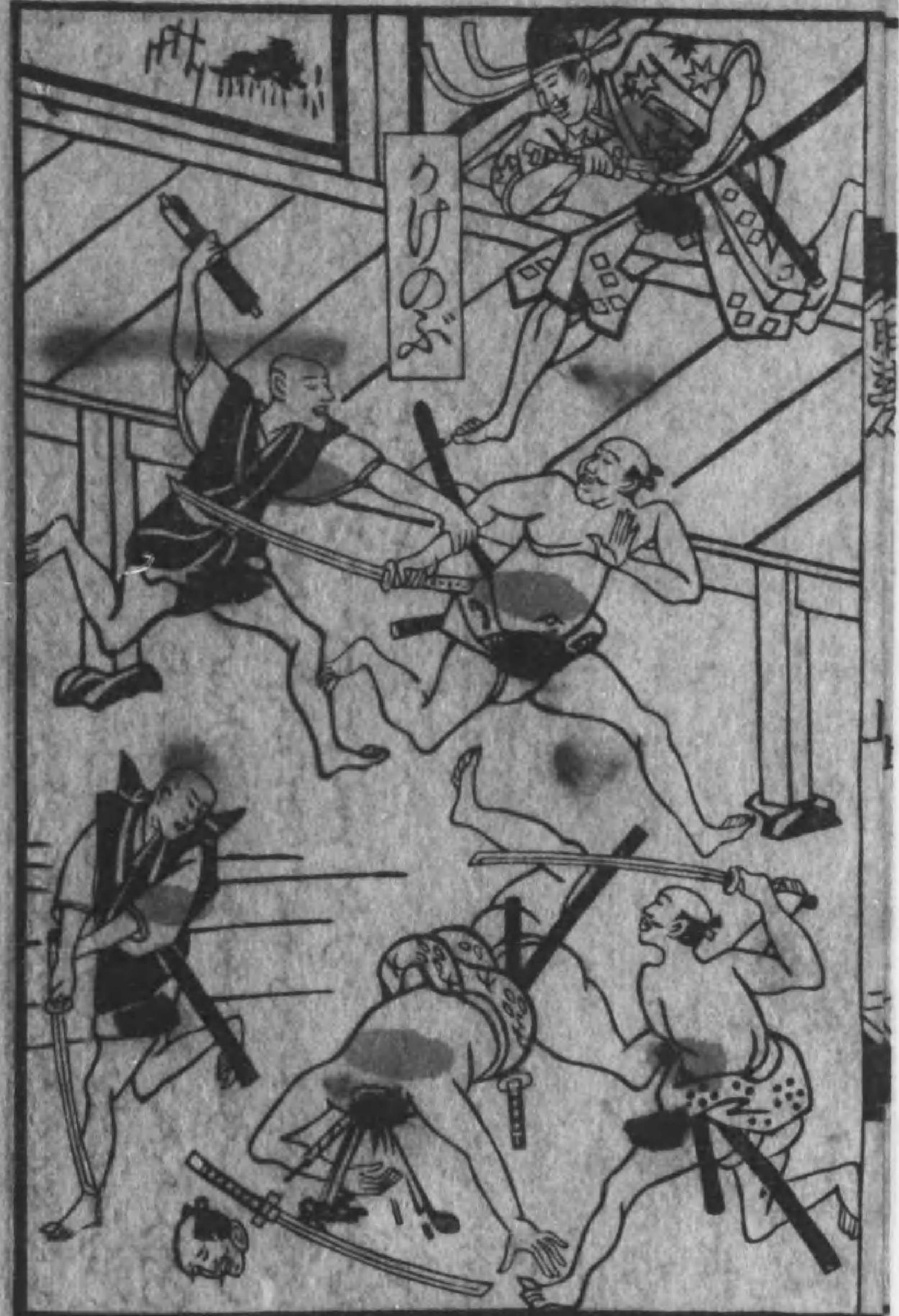
343-520

260
586



やうらう丸とひじいづきのくわみひげのちやうじゆの乃
あうちめんかく二年直平をもにあうみくひ二月十日うす
ねそトクシもれへ二月十七日えまうかまうまや
うれはそそのくわうも今ぐもや士表にめぐまけく
かよおれめのくわきとれおとあんもんにごまうにとれ方
るあじやうらう丸とひじいづきのやうじゆとあんもん
くわきとおりをちきむるきすとひくりふすとくれ
りくぐくとくわくじの下とそづけのくわてナドとせと
りのくわれあくあくほのくわくはのそりくもとぐ
りくわくかたるよじたがくのくわくよちらくまや
きれなえぬくわくはほま世ハ出をあけせをゆべーくわ
りくわくのくわくとよとえあくえきのちのとれ十月八
月八日もくけせをひげり上令これかくわうへらかと分
るときくまそやうらう丸をきうとくそれとくわくまそ

きやうりとくわいもおもつてく日めとわくあふ
きあへらかとくのくとくわくとくよひくくわくきく乃
うれう三七日まんざくやくのとくわく十日れうくうく
まよやくめめきつけめくとくわくゆめくまくさよげり
くわくくわくくとくわくよくわくとくわくとくわくと
くとくにあくはくにちくとくとくほくくわくくわく
くえせをくわくよくまきあくわくとくとくほくくわく
くえくきやうくよくしきくわくれあくとくわくとくとく
とくとくのせくわくとくとく世一をやにぐくとくふ年三月
廿日にあさ日みひりしておひめうわくわくげきやうれ七日
だうあきよとあくひくくくくくとくわくとくのあれあごと
でうきくわくのくわくとくとくわくとくわくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく



ちうけえみやうおきじとハれときてたのひト
くはりとやかさきのとみゆおりまじ見せん
とせひよ松のけえれおせけらじりけのよ
てめりもじきあらじとやそつひと立のあつひ上
あめいじはりとアケリ上今きじなやをきうれども
とそやそおけをやまつりふれかわりけり上育れせりう
みじみ日きびのうけのびらあまたまうれぐうにみのうき
とやるまつせののひ日きへ安てのひけぶらわき
だうれくはまつはしきりあれれあくやれ後モレヒ
れとまのうそのわだう焉、花やうらうまわき
あいはせのふあうらあつてんぐわ

向もんさ

こゑ

そをそそのじきらるみちれんはけのびらひよせのひてや
そりうぎにありせのまきせんえどやくきうめ日きへ安て

てもえのうとだのうえのあやかをもつゆよだうとえ
てやうじてみことねぞうととりうかもあびぢくよあ
づきとだうるにのみけのじきそくとやでやて日れん
とくうびとくも一とじおひとじてひくきうちの
をあものうあへばつよまひくろん大だちとぬさ
りてらうせきとせまとほとまくよまひうけのう
からうとすオのりをあもひうれくのりわせまう
あとあらじと見かとくじうけとじゆうれかねくまおち
ゆきまくくじきとくまくじうけとじゆうれかねくまおち
とじうけいまととくまくじうけとじゆうれかねくまおち
とじうけいまととくまくじうけとじゆうれかねくまおち
大せようりて入てとまじきわまのんくうれ今を
やあうて云ふがふくまのうのじつたうてこそよま
一め大がきあくらはるはるあめによらへあていあれ

うあふまアラマサあらうへりまう今アラマサのひまほじてのちの
うにへまえ日まえばらのまなうはとやそめとせえ
ともれは月らうあけきかがむるめをあてらすみを
いあう月ねやされくるやうはちやうがうの、めくわが
いとしりりのくアラマサのくアラマサいとあがうちよあうと
むひきやうはといまて月みれゆえとえをたう
まえとくはとめせ月ひうじもと三バウズよはみと
あり不月のもとみ六日らうのひぐもゑよみとあれ
とたひようそとあらうあとわれむひつ月らうの
りはまとぐしてゆくうりや日まえハめにあてうちのを
なまぢはうにまえをせめ六日シクともわいそれめうにき
のひまざくやとみひげくのゆそあれすきをふき
あきをふれまへういとくは言えもこくらのわらど

のあひぞくめふぢやうにまえのまうらととくおめきく
とくうあけさかへとちう休しほくまきのまうれま
まくときくけ申とややままでゆうあてまひのとやて候
とおれけり日せま六空シク天スカイとやて候とくまめうと工そひあやせ
えんたうへおあひやまじとやて候とくまめうとまた空
てやまありぢずもうあくへかけきやうとくそとやまえと
えんたうへおあひやまじとやて候とくまめうとまた空
りきて候とえれかう上アベ空スカイとくへ六空シクかとと
たらかく入せあひてニテよむりひいのうの空スカイとくとくとく
こうやまくもくまくまくめめあくとくとくとく
のめよのうひやそあけきやうとくとくとくとくとく
上アベよそえんせらうくせやうとくとくとくとくとくとく
のふきやうふきやうふきやうふきやうふきやうふ
てふきやうふきやうふきやうふきやうふきやうふ
りあまといそじかとあくまきくアラマサくアラマサあめのねを



おきよひうやけり上人をうちきばよむりじまうけとよ
このよどりあへんけれのまろていに日蓮あらび
ちもさくはまくねかかへのあやめん状きよらとけ
もりとくいはせゆけり日蓮もあがめにひアれわの
ちづとまをゆふ上人のゆもさきてそんのうにぬ
うひがゆのせらりゆにあらきとまよいばみきの
そなみとやうきとてあべーひとやてさどうの
ときいそくようとあくつきりは上よたいめへきばりと
やけり上人實をああめりやうふとくれりまくら放る
ゆそりまくらむかく城ときくあくこせととがふ
てあまほじかうおやとののぐあうふがけきりばむす
すもあらかあうけりれ上人のゆあほよたとんりよき
日蓮
ねそそのぢりや日蓮のまうだしおひて

三きのうへとくのひやそがみよられつゝわづかとつてお
わも風にまきせてゆらりとめやとみよされもあふ
そちとうらやまくかことじらとけよしやほくらう
ひのやめへはりがみよりりやまくねえりくさう
ゆのうやくくわきてせがみよみくありせのひてあら
日甚ハもみれぬひ血カツとまくつれども大ぞ也

いきやうじゆじねにぎえりてまうきに今下をか
ゆくおもてゆかひくじゆる者をやうげの者日甚
もみれぬそげすくまつたとくもれがまくへをきや
うう日甚をもむきおれぐもくやまくねきとく
とくをやうくもがまゆとくもくありへんくうてよむ
下をひとやそがみせやそ日甚にかくとくげゆへくを
といそくよだりあへきくはまきくあせをまくならぬが
まれうも財月甚ハもよ、もく、財ハキやうきよおきて
金とくのふるやまくとくとくとくとくとくとくとく
りやうせんのやまくとくとくとくとくとくとくとく
まれ方々大きひくわとひきくれやまくとくとくとく
このがさあとをもももあげよけうくくうとくとくとく
今からうきえやそゆじてとぞとやけう日甚おじくまく
にちあくらはあけのいふはてうやうれのとくじぎをせき

めぞりすすめんわくじあひるをハ梅とさきよりまうにそ
ありといあまらいすやゆそもくぼくかじてこううれ
ゑのつけはいとそりけのきらじやとつうようしづ
ぐえさんとめりくどとくろりとそきとくみふあけ
ちふざくであそやくいときたほけやべとほとくとそ
のひげうちくがまうなの役とだひよせあふ今比のれ
ううまでびきとあいあさうとやえやそそれく日蓮
よじゆとや日生スハ安らつきとるそとやおもちよ夫
いまくきてのじにかけきうれり者とまわりておの夫
らふととおとおとくと二あやうとれりうこうふ木下
のめう法をひらめくかとまぬれ令づらほまきひる
くにそくらうとみにじをやくやめあうけり

巻首三界四月吉日七紫雲

南無妙法蓮華經
日吉人
ゆんめ

さてこそのらいざりや日生上人とのれつ
くまうなのまますそもくまのうじなむとぞ
ひまうなまとあやむにみひととあくやをあきりま
あひとてとあせがくとの六度まわしんとさらあ
きのまととあまねんあうけりくまうなむと
あうけきやうといとくきやさんとめうわうと
やうとさううのから目がんあるとよひりておけを三
かうじゆのひそもくめうとじめ玉へかけきやうれり
ようあで目まくとへきよごとくあれハ今やう
のよ、あきらかがるひせきとくもひきうとミモテ
そかぎのやうとやきいりに月天子とせめのハ

りさうあきの樹のまにくりひろをあらへるのり
おさあだとくとあり上ぐむむりて志だへわくうわれ
えうきもとけしとうぎよもどきうせぐんうるみ
あーかまくゑゆれにてふちのそみまきと上人
安らあいれぬはてふちのそみまきと上人
かうと立りがものゆくをとらししまほひ
りまくゑゆれそのきとてゑゆくたつれときうにこの
太とあげうへあくそくとめのひげくええきのねよかく
かうひのこからきいそくよやとくつきくちやうもやを
てあようどもめのひげくええきのねよかく
因月てりて月セ月あたにかうきがわくうぎのゆ井あき
みもひなけきうるひるゑきうじとむり上ぐらうき
びゆりとせのまへ上ぐ雲をやうそくすキやくとすで
えうづく大さあうきひあうごくまくもがくづれまとう

うめ日がとまくうだ雲にあましとほりうりうくま
うにうじゆをやといなきうをよむりゆくまうだき
みおとくまうとやくまうきてそきまくみ宿あつ
きーくはまくまえびゆとやいがくうとづりきれあと
くまよくまえびゆのきじてゑあへくわくとくくち時より
ひりかーくせくまくまのまげつてふむむけくまてふくま
み立あれらやれめんがくあくられらの力そりあくまじ上ぐま
あむとつめれとくうてあふのこからきいへくみ宿
あくまじりは上ぐみ宿りくとやとらるるよむりぶ一日蓮客
天のゆうきくまうにううきくのあくらくゆくをくくよ
あくまじとゆくあくまじとあくらくとあくらくあくま
くまとあくらくとあくらくとあくらくあくまじと
もくくあくをあくられ共せくまのうぎざめくとあくま
る二のまのまをとえもやとだとりはよとえときのえと



さあせ
すよおそのへとテのめがともみをうこうりと
まくえあうつるのれいゆがゆとせんりまくはなの作より
発おときゆうかまのあひてむくをみてあまれねをえせ
とゆすり、れくこやもまたられ大ねす、あむとよそぐ
をすく、ふの大ねよあらうとハそれ、日せんじやけの
あく、日れんばあらかうりあやひのりう、二重まそくれ
あく、うきよりきよとうがひとんくあ、だひつて方きよそ
よをうきてあめれねせえせと、なをと上そがのうう天ち
あじ、きそあひじにてのれせ、とくをせまともちぬにき
ひじうとまじ、とキあまくれ、うぎくうれ、あやうりう
あきひくとそくうをゆき、じさんどよあやま引
とひくとほじあひき、あやうがあじりりひよじ、ぞ
とえうひりと、なうとくみをもにあうくみくろと志
ひうふかとまほ、うきうとまほにあうくみくろと志

あらわすゆゑもあらじとまほだりとまわひまよ
きてそきいとうに絶が止ふたまつて無事ゆくとあけ
まうみなしゆるひがまきりむげたひのげやうとて時
より言草もけらに言草とそくまくゆめのめやむ室
とまくとみ意くれどはぬくそをかうりき
用事書き
えをうれぢまく肩見へ目見うりくせん今かて
のよれりふあふとてゆひりまとふそりくいふ宿
やうれやうに立ち大やう目見うふみけくや日らう
きてきれとくねそのが今まほじれそ日蓮ま
みけりくわくらとひくそりうそまそうそくうらの
れのまがふもとまき良しよまそてやけきよれくと
りよれゆが月らうゆれが月らうきてね日まよほ
まともやけきゆれ方きよてあの方あくようゆじとくを

あてえあきらう日れはかうせ「くもやひ切ふまとくち
やいあくのやうに今ハタアハミシゆひくまえ
せとつきを日まえハ突石重きよもすすめあきまく
めまくみゆれろをたうりすれとそれとやくらあくや
く毛之ちはハムにほまたそあちやめのとハ毛とさき
や、毛毛てほまほくとあれかてあきらう日れゆじ
て、いづよかくらはハドリセのなまけと、もがくあせ
のあぐれ、うハリせれんちとれのひ今をりきと、あふと上人
と、うまくわと、立かひしきよは、上宿や、毛りあ
うはくへめだりきまとや毛にぞくうきこれくと
きあふくひ見れ、見れ、ばの毛つまむがくぬと、う
毛とあく、いひのと、がくのゆに、の日蓮、こうゆび
いて、がくの、ふうきやあはうのめ、あめ、あめ、うとくに、うと
おききせのひうかのけよ、三の日蓮、ひよ、毛にどう

まうすりやくと、にむきれて、あらうれきまく、けね
ほうすみ、ゆゑと、ひあし、おきせのひつて、そど、波人、に、
の、みに、見れ、あき、ほじて、こ、み、か、おわ、か、と、ぬ、あ、く、で
み、く、く、ま、と、だ、く、も、く、わ、に、の、な、く、く、ま、と、け、い、狭、ま
よ、あ、や、く、く、付、て、き、あ、ま、城、か、う、と、ハ、仰、の、あ、ま、ハ、リ、や、
ま、く、ニ、と、き、う、む、に、仰、と、あ、ね、う、り、う、と、ま、ま、え、と、よ、
見、空、す、け、よ、き、や、仰、く、る、余、お、む、と、こ、そ、て、あ、た、を、け、や
と、あ、た、あ、ま、き、に、草、あ、ひ、氣、に、日、れ、を、ゆ、と、あ、海
ぞ、う、不、き、あ、い、く、あ、く、ら、が、り、か、う、い、あ、す、す、う、く、ま
て、く、れ、す、あ、ん、じ、あ、く、ま、と、あ、じ、あ、う、じ、あ、ま、ゆ、か、く、そ
ま、あ、う、か、う、と、う、け、の、日、れ、ハ、突、石、や、ま、き、う、と、や、て、か、む
め、う、か、う、り、け、き、あ、れ、せ、ド、と、う、と、れ、と、あ、ふ、あ、そ、の、じ、あ、と、み、ま



正まゆきのうにづくのみおろか山道よりんとぢりく
育ち良きよやどうのふたすよ竹の下ナウにこうま
クトナムに大あやおれあへを日じりひのせをきうお
のわうにゆく六月をさりりめで、わたりとあをふよし
まひのそんみえこのがふはれへきておきでありわらふ
のすがふよゆめゆ月蓮上不んをふよほまにと
あとよひきうるわうわうちつまきえんふよえきう
いそくよおとあきりハ月蓮よだぬよわひけふきう
りあみりあうふわゆめやききたわくや東あらり

月蓮人形

六人目

まことそののちあれゆくお月らうハ年月をわうじふあ
うまにゆくゆきり月らうるよめやうわきやうれむ
よハモスカあひやどにまくれとやまき方あれうをわ
をとくびてぞりりけくわうどじてそまうていうよ

月らうかのあうじうめのやありんとおられ
くとおやそと、おとのひろうれどいとおひ
らきげもとくうせの育らうふそんておこくと三と
ゆかくとねるをどりまよりてたきよにひりひ日
蓮と、ゆひのふをあら三りほしまりとくまきにえふ
やそそれたひあらうひ、りきわをあるてのふを
ゆあじゆふをあらうもせとやせハカおよだの
ゆめさとくうてあざきハをちもいとよ冠めむじ
のふひげがとあくまうのくよひなりやじく
のふりまうかみで、だんがうんめとわあうのきじ
まやけつ日蓮ゆりてやそあくらんまのみきやあ
いふくとそれつうちのよじかく禁とめんくもと
まどひ月らうせりはそほひかく禁かふそりあ
まんかふよましとそもやなやうめとおうしげりが

げきそりあぬちふそびよおらせのひけうはー、たぢ
ちのなみとほりかみゆきそそのらうとひひ
日らうひひうけのふきてそりそりとちえきぎよ
つけくはらゆのあとあおきりとへじきれまとくそ
くふれとあつきりくわん六年二月分上人のおまえ
めりきうぐどりくわんへまはとよりやとまに
よりておひひきよいけりとめのちきう日せうがま
てれすあせて百四十八うにまごひじりよまれま
をかくらうよりくわんのよりよきあめめふちやうも
まもまわくわなめもくわをそくせんがくわ

義應三牛四月吉昌
二条通丁子屋町森右衛門

瑞 製 薦 書 會

品 賣 非

發 行 所

米 山 堂

昭和七年二月廿五日印刷
昭和七年二月廿八日發行

第七期
第十六回

編輯兼發行者 東京市牛込區富久町八十四番地
山田清祐
大塚五郎
鍋祐郎
阿部次郎
刻者 彫刷者

東京市牛込區富久町八十四番地
米山堂

印電株式会社
三三三〇九番

終

